



## 支会だより

## 謙虚さと誇りを胸に



鹿部支会会長  
(鹿部小学校)  
福井伸一

鹿部町は、渡島半島東部に位置し、駒ヶ岳と噴火湾を眺望でき、間歇泉をはじめ三十六ヶ所の源泉がある湧出豊富な温泉に恵まれた漁業の町です。その主力は天然昆布の他、養殖昆布、養殖ホタテ、スケトウダラなど多種に及んでいます。

社会教育の環境では、野球場やサッカー場・パークゴルフ場などを有する多目的山村広場や鹿部コミュニティプール、せせらぎ散歩道等の鹿部公園、総合体育館など生涯学習の充実に向け整備されています。

また、今年三月十八日にオープンした道の駅「しかべ間歇泉公園」の整備で温泉の町としての魅力もさらに高まり、二つのゴルフ場とともに都市に近いリゾート地としても有名です。

そこに移住された方々と鹿部

カールスクラブの方々をはじめ多くの方々が学校支援ボランティアとして協力してください、長期休業中の学習サポートで温かな協力をしてくださいとあります。

さらに、今年度十月よりコミュニティースクールを立ち上げ、より幅広く地域に根ざした学校づくりを進めています。

夕陽会鹿部支会は、鹿部小学校、鹿部中学校の二校十五名に加え、しかべ幼稚園と鹿部町役場に一名ずつの計十七名の会員で構成しています。平成二十八年度の鹿部支会の総会・懇親会は、六月十七日に行われ、本部からは、副会長の天野哲征様、支部からは、支部長の木村孝様に出席いただき、本部と支部の現況と本支会への励ましを含めたお話を頂戴し、盛会のうちに終わることができました。

鹿部支会会員は、これからも年代を越えて、同窓の絆を強め、謙虚さと誇りを持ち、鹿部町の子どもたちのために全力で教育に励んでいく所存です。

## 支会だより

## 学術と文化のまち



長万部支会会長  
(長万部小学校)  
一戸裕之

長万部町は、古くから道南と

道央を結ぶ交通の要衝として重要な地となっており、北海道を代表する駅弁かじめのまちとして全国的にも知名度があります。しかし、意外と知られていない一面として、豊富な文化財、施設を有しているまちであることです。中でも価値ある文化財を多数収蔵する平和記念館

には、北海道出身の世界的彫刻家、本郷新氏の「嵐の中の母子像」や「わだつみのこえ」などの彫刻が展示されています。また、北海道唯一の水墨画家で俳人でもあった植木蒼悦の記念館には、蒼悦の河童をモチーフにした水墨画をはじめ、油彩画などの作品が多数展示されています。この他にも郷土資料室・鉄道村にはシャクシャインの戦いから現代までの町の歩みをたどる民俗文化財や、かつて鉄道のまちとして栄えたことを物語る

鉄道マニア必見の「見て、触れて、動かせる」鉄道グッズが展示されています。これら全ての施設が長万部町の芸術・文化の拠点である学習文化センターの周りに集まっています。来町の際には、是非立ち寄っていただければと思います。

さて、夕陽会長万部支会は、長万部小学校九名、静狩小学校四名、長万部中学校六名の合計十九名で構成されています。今年度の総会及び懇親会は、七月十三日に恒例の長万部温泉ホテルで行われ、ご来賓として我々の大先輩である長万部町教育長の鈴木祐司様、夕陽会本部副会長の島津彰様、夕陽会渡島支部副支部長の長崎充宏様をお招きし、大いに盛り上がりました。特に今年度は三校の管理職全員が夕陽会員ということで、夕陽会の和がそれぞれの学校全体の和に繋がっており、「夕陽」の強い絆を改めて感じることでございました。

今後も会員の結束をより強め、長万部町の教育の充実・発展のために寄与していきたいと考えております。

# 新会員だより

## 「半年が過ぎて」



八雲支会  
(八雲小学校)  
佐藤 麻美

今年の四月、八雲町立八雲小学校に赴任いたしました。生まれ育った渡島管内で教員人生をスタートできることに、喜びを感じています。

大学卒業後、なかなか採用試験に合格できず、心が折れそうになることもありましたが、多くの先輩の方々に励まされ、支えられ、乗り越えることができました。

赴任して半年が経ちました。日々、教師としての責任の重さを感じ、不安になることもありますが、明るく素直な子どもたちと充実した毎日を過ごすことができています。

これからも、教師として成長していけるよう、子どもたちに寄り添いながら励んでいきたいと思えます。様々な場面でお世話になることと思えます。

今後ご指導よろしくお願ひいたします。

## 「教員生活の始まり」



八雲支会  
(八雲小学校)  
工藤 大地

この度教員採用試験に合格し、今年度より八雲町立八雲小学校に赴任いたしました。夢であった教員生活の始まりに、喜びを感じています。

私の出身は秋田県です。大学進学に伴い北海道に住むことになりました。北海道教育大学函館校を卒業し、この度渡島管内で教員生活をスタートできたことに、縁を感じています。

赴任して約半年が過ぎましたが、周りの先生方や保護者の方々、地域の方々に助けていただきながら、日々勉強の毎日です。上手くいかないことばかり自分なりに子どもたちと向き合っているのが頑張っています。子どもたちが毎日笑顔で学校生活を送ることができるよう、教員として努めていきます。

まだまだ未熟者ですが、成長できるように励んでいきます。

今後ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願ひいたします。

## 「新たな道」



森支会  
(森小学校)  
松本 尚大

今年三月に情報科学専攻基礎情報分野を卒業し、四月に森町立森小学校に赴任しました。

新たな人生を学生時代に過ごした渡島管内で始めることができ、とてもうれしく思います。

右も左も分からなかった新生活から半年が経ちました。「教員になる」という夢が現実となった今、改めて子どもと関わることの楽しさやすばらしさを感じています。自分自身ができることはまだまだ限られています。日々精進しているところです。

まだまだ未熟ではありますが、これからも学び続ける姿勢を忘れない、子どもたちと共に成長できる喜びを感じながら、一歩ずつ歩んで行きたいと思えます。

今後、様々な場面でお世話になることと思えます。

ご指導のほどよろしくお願ひいたします。

## 「無我夢中」



森支会  
(森中学校)  
高瀬 有華

平成二十八年度に北海道教育大学函館校養護教諭特別別科を卒業し、森町立森中学校に赴任いたしました。夢であった「養護教諭」を生まれ育った北海道で実現できたことを大変嬉しく思います。

四月からは、とにかく無我夢中の毎日、あつという間に半年が過ぎていきました。失敗も多く、くじけそうになることもありましたが、周りの先生方、保護者・地域の方々を支えていただき乗り越えることができました。支えて下さる周りの方々には、日々感謝しております。また、生徒と関わる時間はとても楽しく、「養護教諭になって良かった」と感じています。まだまだ未熟者ですが、これからは学ぶ姿勢を忘れず、日々成長していきたいです。今後も皆様にはお世話になることと思いますが、精一杯努力していきますのでご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

## 「半年間が過ぎて」



知内支会  
(湯ノ里小学校)  
石郷岡 朝美

今年の四月から、知内町立湯ノ里小学校に赴任しました。夢だった「養護教諭」になることができ、さらに自分が育った渡島管内に赴任できて非常に喜びを感じています。

四月から今日まで、児童や保護者、地域の方々、先生方など本当に多くの方々に支えられ、学ぶことが出来ています。

また、子どもたちと関わる時間をしっかりと持て、わからないことがあっても周りの先生方に相談できるこの環境にとっても感謝しています。夕陽会知内支会の会合でも様々なお話をし而下さり、同窓の良さを実感しました。

まだまだ未熟ではありますが、これから皆様には様々な場面でお世話になることと思えます。子どもたちのために向上心を持ち精一杯努力していきたいと思えますので、ご指導どうぞよろしくお願いいたします。

## 「念願の北海道、渡島で」



福島支会  
(福島小学校)  
嶋田 恭明

神奈川県横浜市にて九年間勤務し、今年四月より、福島町立福島小学校に赴任いたしました。昨年度、以前から考えていた北海道での教員採用に挑戦し、さらに、大学時代を過ごした渡島へ戻ってこられたことは、何よりも嬉しいことです。

現在、赴任してから初めての冬を迎えようとしています。環境が変わり、まだまだ戸惑うことも少なくありません。しかし、同僚の先生方に、たくさんの夕陽会の先輩方がおり、日々の学習指導や生徒指導など学級の経営にかかわる多くの助言をいただことができ、心強く思っています。北海道の人の温かさを実感しています。

この先も、学ぶべきことが多いです。夕陽会をはじめとする諸先輩方からご指導をいただきながら、少しでも成長できればと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

## 「同窓の地 渡島に」



七飯支会  
(七飯中学校)  
木村 大樹

本年四月より、北海道・北東北三県の人事交流で青森県から七飯町立七飯中学校に着任いたしました。初任で釧路に勤務していた頃は独身でしたが、現在は家族も増え、一家五人で引越してきました。育てていただいた北海道で再び勤務できるとに喜びを感じています。

着任早々、沢山の同期生・先輩・後輩に声をかけて頂き、なつかしくもあり、また、夕陽の温かく、強い絆を改めて実感しているところです。

あつという間の半年で、久しぶりの学級担任でしたが、多くの先生方、子どもたち、保護者、地域の皆様に支えられながら、日々研鑽を積んでおります。

青森県で学んできた知識や経験を生かしながら、未来を担う七飯町の子どものために、精一杯職務に励みたいと思えます。どうぞ、よろしくお願いいたします。

# 終身会員

## の声

### 健康な老いは



昭和三十七年 一類  
加藤 誠

幾つかの病院へ通うようになると、嫌でも老いを感じるようになるのは、多くの方々が経験していると思う。

夏の山女釣りに冬のスキー、春秋の山菜や芽採りができなくなった。楽しみが減るのは寂しいが、楽しみはまだ幾つか残っている。好きな園芸も、体に負担がかからないように、少しずつ改善していつている。

そんな日常を通して、物の見方や考え方をこそ変え、残された可能性の中に妙味を求めめるのが最善と考えている。

大切な物は何か、断捨離できる事は何かを、普段に考え、それを実践に移していくのは、生きがいになり得る。

身体は衰えても、精神が意気軒昂なら、高齢者の健康な生き方の一つにはなると思う。

身体の変化を受け入れながらも、精神活動を高める意識を持続させるならば、「健康な老い」と言えるのではないだろうか。

いずれにしても、モチベーションは自らが高めるしかあるまいが、それは各自の工夫と努力で克服する目標になるし、喜びともなるのに気づいて欲しいと思っっているが、如何だろうか。

皆様の考え方を伺ってみたいものです。

### ホッとするひと時？



昭和三十七年 一類  
北川 能典

ご縁があり、退職後大谷高校の経営を任された。

私学経営に格闘しながら、ある本の一節に目が止まった。物理学者アインシュタインが述べた「宇宙の神秘の法則を少しでも理解していく神秘感というもの」が宗教心であると言うなら

「この言葉に揺り動かされ、木古内のお寺の住職にお願いし、得度・僧侶の末席になった。

お経も下手、説教もままならず、仏典もよく知らず、仏さんを信心することも深くなく、日常、何も変わらずであるが、かつて、教師で両手足の自由を失った詩人・富弘氏に教えをいただいた詩をふと思い出した。

「痛みを感じるのは 生きていくから、悩みがあるのは 生きていくから、傷つくのは 生きていくから、私は かなり生きていくぞ。」七十七歳を超えてこの言葉に改めて心打たれた。

今、第二の仕事を一と区切りし、ここ七回程「子育て・教育カウンセリング講座」運営の仕事に係り、人の心が持つ襲の無限生を改めて学び、腰痛に悩まされながらも、日々、孫と共に、自宅の小さな野菜畑に小さなスイカを育て、その神秘的な長力と生命力に感動し、何かしらホッとするひと時がないかと願う日々である。

# 南米日系人社会との 出会い



昭和三十七年 一類  
間山伸一

五年間お世話になった母校、夕陽会、渡島管内のみの教員生活は私の感謝の原点である。

退職後の十一年余り、南米の日系人社会との出会いが、私に生きがいを与えてくれた。

平成十二年から二年間、アルゼンチン国の首都ブエノスアイレス近郊のブルサコ日本語学園への赴任であった。JICA

(国際協力機構)からの派遣によるボランティア活動である。

教師への指導・助言、管轄校への巡回指導(遠方は飛行機で)

また、日本人会への協力等が主な仕事であった。活動の計画・

実施・予算・決算・進捗状況の報告など書類処理は大変な仕事であった。しかし、現職三十代

でアルジェ日本人学校に赴任、退職後の祈願だった再度の海外派遣に満足し、納得できるもの

であった。

帰国後、札幌の日本語学院で孫と同世代の学生と共に半年間学び、日本語教師の資格を得た。

次の派遣は年齢制限六十九歳の数日前に合格の通知が届いた。

ブラジル国ドラードス日本語学校だった。ここで教員生活最後の二年間を送った。

今年の一月、一カ月間、両国を訪ね旧交を温めた。南米にも二つの赴任地があり、故郷が増えた。

## 伝統芸能を守る



昭和三十七年 一類  
高橋勇

つい先日、新聞に小学生が地域の伝統芸能を学校ぐるみで取り組んでいる記事が写真とともに載っていた。その学校は私が新卒で赴任した学校であり、しかも退職近くに再度勤務した学

校であったので、その記事を読んでいた。昔のことがよみがえってきた。

初めて赴任した当時、学校は古い木造校舎だったが、五百名を越える子供たちであふれていた。地域は漁業でにぎわい活気に満ちていた。そのころの伝統芸能は大人が中心で、子供たちはそれを見習いながら祭りなどに華やかに披露されていた。

それから二十数年経ち、再び赴任した学校は近代的なモデル校舎に生まれ変わっていたが、子供たちは百数十名に減っていた。地域は人の減少とともにかつてのにぎわいは薄れていた。そんな中で、伝統芸能はいつからか子供たちが中心となり、教育活動の一つとして、学校全体で取り組み、受け継がれていた。

更に二十年近くたった今、その学校の児童数は五十名に満たなくなっている。

しかし、どんなに子供たちが少なくなっても、延々と地域の伝統を学校ぐるみで守り育て、

子供たちが喜びと誇りをもって演じている姿を紹介している記事に接し、なつかしさとともに深い感銘を受けた。

そして元気なうちにもう一度その地域や学校を訪ねてみたいと思っている。

## 東京へ函館

### 空路日帰りの旅



昭和三十七年 一類  
鈴木俊二

公用や私用等様々な目的で多くの人が往来する空路東京へ函館路線を去る平成二十八年九月二十九日、保護司等中央研修会に出席の指名を受け、参加することになった。

喜寿を迎え、保護司定年退任(九月三十日付)の前日、しか

も日帰りという超過密スケジュールである。十四年間、対象者の社会復帰と向き合い、重い肩の荷が降りようとする間際で、解放される直近の日であった。

一人旅の経験皆無の私が東京都千代田区大手町所在、皇居の反対側に位置する日経会館への保護司として最後の研修である。羽田空港から日経ビルまで二十一キロ、三駅乗り継ぎの移動手段は不安感と心配の種であった。困惑と焦りの中、出発直前に永年函館地区保護司会の役職を務めているK氏の同行を知り、不安も払拭された。

退職後の十四年間の再就職場での出会い、教職関係OB会のお手伝い等、更に保護司会での温かい交流等、人との触れ合いと支えが有ってと感謝している。

この度の研修会は法務大臣同席で講演も示唆に富んでいた。年相応に身近のお手伝いを削り、パークゴルフを仲間と楽しんでいっている今日昨今である。



## 相変わらず物好きな日々を



昭和三十七年 一類  
奥野 茂

小さい頃から何にでも興味を持ち、それを自分でやってみないと気が済まない物好きで多趣味な自分に、呆れながら記述している。

小さい頃から野山や海などでの動植物の観察や採集を好み、図工や体育が好きで、学校を離れても絵を描いたり走り回ったりと物好きの始まりである。中学生の頃から、ギターや囲碁に挑戦。また、柔道、ラジオ作り、アマチュア無線、写真の現像焼付けなどにも物好きが広がった。教職に就いてからも、油絵、バドミントン、スキー、チェロ、登山、釣りや麻雀など、更に物好きが増えた。

教頭の頃、野草観察にも興味を持つようになり、付近を探索するなど。更に物好きが増えた。

退職後は、妻と一緒にワゴン

車で道内を毎年のように走り回って野草を探索。道の駅で車中泊をすることが多かったが、時間等の制限がないので、野草探しには都合が良かった。

大雪山系の山々を始め、道内各地の山々、湿原、原野、海岸など、季節を変えて何度も回った。利尻礼文・天売焼尻などの離島でも探索してきた。また、道端や空地などの環境に多く見られる帰化植物を求めて街中も探索した。

十年程前には、パソコンを使って七〇〇種ほどの野草を載せた野草集を編集し、手作り製本した。その後、苔・羊歯類にも手を広げて、観察した野草も一〇〇〇種を超えたようだ。

現在、もっぱら近くの野原や山際など散歩しながらの野草探しや、家の周りに生えた野草を見つけて楽しんでいっている。つい最近も、近くの水田で絶滅危惧種の新しい野草を見つけ感激した。物好きは、まだ終わりそうもない。

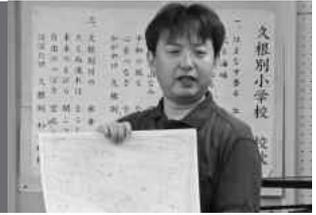


# 会員紹介

## 気づけば子供まみれの日々

平成6年 総合科学課程人間科学コース卒

佐藤 慎治



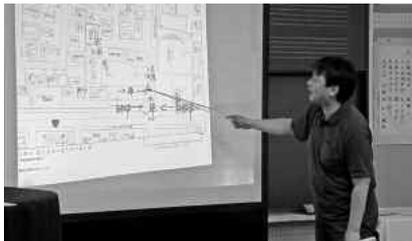
市P連ミニバレーボール大会



給食試食会



久根別小学校 運営協議会



久根別地区 子供を育てる会

大学卒業後はイベント運営や倉庫管理の企業に勤めておりましたが、キャリアアップの必要性を感じ、教材販売・家庭教師派遣の会社で契約社員待遇の身分で働きながら勉強する日々を送っていました。二十五、六歳の頃は既に結婚していたので生活の心配もしながらでしたが、幸いにも自力で仕事を取って来られるようになり、間もなく独立しました。

それから現在に至るまで、自営業で家庭教師と進学相談を行っています。『教育界のスキ間産業』を標榜し、学習塾や学生家庭教師では対応が難しい不登校生徒の学習支援などを中心に営業しています。

家庭では現在中二と小五の二人の息子の父親です。息子が保育園の時に遊戯会でアンパンマンの着ぐるみをかぶったことがあります。偉大なヒーロー・アンパンマンを見つめる子供たちのキラキラした瞳と声援に魅せられてしまい、以来、気がつけば本業も含めて子供たちに関わる仕事ばかりしています。保育園で父母会長を務めた後、現在は久根別小学校PTA会長、並びに久根別小学校区の主任児童委員を拝命しています。保護者代表として、学校のみならず教育行政や社会福祉行政に意見を申し上げる機会が多く、責任の重さを感じることがありますが、地域の

子供たちの成長や育児・教育環境改善に自ら貢献できる喜びは大きく、充実感の中で日々を過ごしています。

学校と関わる機会が多いので、同窓の先生との出会いも多く、教育界に於ける大学の存在の大きさと、そのネットワークの豊かさをいつも感じています。PTAの仕事は子供が卒業すると終わってしまいますが、主任児童委員は向こう十年ほど継続可能なので、環境が許してくれる限りは地域の子供たちのために尽くしたいと思っています。会議や訪問で皆様にお目にかかる機会もあると思いますが、今後ともよろしくお願いいたします。

### 終身会員の皆様へ

「平成二十八年度 勇退者激励・感謝の会」を次のように開催いたしますので、ご案内申し上げます。

◎二月十一日(土)

懇親会：午後五時より

◎会場 ホテル法華クラブ函館

◎会費 六千五百円

◎申し込み締め切り

一月十六日(月)

◎申し込み方法

同封の葉書にてお申し込みください。

### あつがき

新会員・終身会員の皆様の特集号、『夕陽渡島』第三百十号をお届けいたします。御寄稿いただいた皆様には、大変お忙しい中での原稿執筆に心より感謝申し上げます。

また、今号も会員の皆様に多大なる御協力をいただき、予定どおり発行できましたこと心よりお礼申し上げます。